

目録の祐



大田ゆうすけ
(福山市議会議員)

No.1

毎月1日号に掲載

いの魅力を感じる存在にしない限り、優秀な議員は誕生しないだろう。

皆さんの身近にいる議員をよく観察してほしい。概ね質素な生活を営み、町内会やPTA等の地域の活動に積極的に参画し、講演会や各種行事の開催においては、実際のところ議員の持ち出しもかなりある。それでも議員が批判される最大の原因は、報酬に見合う「成果」を挙げていないことと、行動力や発信力の弱さと考えられる。

最近、各地で議員報酬が高すぎる、議員が多すぎる「減らせ」の大合唱である。議員として随分耳が痛いのが、現状ではこの流れは変わるどころかますます加速すると思われる。年間100日余りの議会開催日数にもかかわらず、福山市議であれば年間1千万円を超える高額報酬を受け取ることに対する批判がある。さらに議員の専門化・サリーマン化により、選挙に通ることが「就職活動」になっているという批判もある。

諸外国においてはボランティア議員も存在する中で日本の議員報酬が高い原因は、GHQの方針により戦後の混乱期において優秀な議員を確保するため高額報酬を保障したからと言われている。もはや戦後も終わり、議員はボランティアで良いとの意見もある。それは理想的ではあるが、議員を若くしてボランティアでやるくら

最近私が得た「手応え」は東日本大震災における支援活動だ。メールマガジンやブログ、電話、口コミ、立て看板等のあらゆる手段で支援物資の提供を呼びかけたところ大変な反響があり、マスコミも大きく取り上げてくれた。議員は選挙を通じて幅広い人脈を築いており、その人脈を活用して支援の輪を拡げること成功すると同時に私自身も評価を得ることができた。この活動自体は議会とは関係は無いが、議員としての本領を発揮できた例として同僚議員にも広めていきたいと考えている。そして議員一人一人の評価を高めることが、議会全体における信頼回復への道ではないか。